



春日っ子通信

春日小学校・校長室だより

文責 校長 丸山 晴幹



「学び合い」から、身に付くこと

本校は、授業の中で、子ども同士で学び合う場面を、意図的に設定しています。その学び合いが、より活発になるためには、自分の考えをしっかりと持つことも大切です。そのためには、その時間と自分の学びを創るための支援も必要です。

さて、これから子どもたちが生きていく社会は、グローバルで、変化の激しいことが、今以上に予想されます。技術革新による大きな社会の変化、様々な機器は、目まぐるしい発展を遂げることでしょう。私は、そんな中、子どもたちに必要になる力は「主体性」だと思っています。自ら進んで道を切り開いたり、積極的に何事にも挑戦している力です。しかし、大人も子どもも周りと合わせる、違うことをしない文化もあるのではないのでしょうか。また、先生から言われたから宿題をする、家族から言われるから家のことをする姿が見られます。もちろん、それも場合によっては必要です。これからの困難な時代を切り開いていくためには、自ら学び、自ら考える意思と行動力が求められていくと思います。

ところで、この力はどこで、どんな場面で、身に付けることができるのでしょうか。私は、学校生活の中での活動、また、日々の授業の中で集団の中で身に付けることができると思います。

これからも、本校教育は、何事にも積極的にチャレンジする子どもの育成を目指します。そのためにも、「みとめて、ほめて、よろこぶ」のかかわりが必要なのです。

キャリア教育について



キャリア教育とは、「経験を活かして、現在や将来を見据えることなどを主眼として行われる教育」とされています。

将来の夢を子どもに持たせることは大切なことです。その目標ができれば、何をなすべきか、なぜこれをするのか、の意味がでてくると考えます。

4年生は、2分の1成人式の前に、本校「おやじの会」のお世話で、様々な職業の方をお呼びし、話しを聞く体験を行いました。子どもたちは、全ての職業の話は聞けなかったのですが、職業に就くとはどんなことか、また、こんな仕事をしたいという夢が膨らんだことと思います。将来像をしっかりと持たせること、その一旦に触れさせることは、小学生の子どもたちにとっても意味があることと思います。自分の夢を持ち、その夢を目標に進んでほしいものです。